

六月例会御案内

(平成二十九年・通算第六七五回)

公益財団法人協和協会

○御案内

六月二十九日(木) 正午～午後二時半 参議院議員会館 地下一階・B10九会議室

◎議題 恐慌化する世界、日本はどう進むべきか!

講師 今井 激先生(国際エコノミスト、古くから日本はじめ国際経済の分析で知られる)
いま、アメリカをはじめ、イギリス、ドイツ、フランス、中国、韓国等々、その経済状況が、厳しさを増し、下手をすれば、世界経済は恐慌へと落ち込むのではないかと囁かれております。アメリカのトランプ大統領も、その点を危惧し、ともかく、アメリカの経済・金融・投資・雇用の回復に、なりふり構わず、取り組もうとしておりますが、大統領選挙中からのロシア疑惑が浮上し、これも、大統領解任へ発展しかねません。世界経済は極めて厳しい事態を迎えています。上掲の国々に比べ、日本経済はまずまずの状況ですが、もし、世界恐慌に突き進んだ場合は、日本もそれに巻き込まれざるをえません。そうした世界経済状況を踏まえ、いま、日本はどう対処すべきかが、大きな課題です。そこで、今回は、理論面だけでなく、実務面を踏まえて長年研究されている今井激(きよし)先生に、分析・御解説をいただきます。重要な課題、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

□ 当日会費(昼食付き) 会員四千元、非会員五千元 午前十一時半から入館可能です。

公益財団法人協和協会

△云

当日連絡先 080-8836-6203 重田

080-9292-2620 高津

六月二十九日(木)の月例会に

(通話のみ)

<http://www.kyowakyokai.or.jp>

電話 03-3581-1192

FAX 03-3507-8587

出席 欠席 (いずれかに○印を)

御芳名

貴方様のFAX

メール

▽六月二十七日(火)までに欠の御連絡賜りたく。

○御報告

米国のトランプ新大統領は、四月に訪米した習近平中国主席に対し、南シナ海で珊瑚礁を埋立基地化することを止めること、度重なる北朝鮮のミサイル発射への中国の影響力行使を求め、米中関係が緊張している折から、去る五月二十二日の月例会講話は、『どうなる米中関係! どうする習近平!』と題して、昭和の時代から中国ウオッチャーとして知られ、当団体の講師会員のお一人である国際関係評論家の宮崎正弘先生に、御講話をお願いいたしました。

その御講話の内容は、米中情勢はもろろん、南北朝鮮情勢、さらには世界国際関係情勢に及び熱心に御解説下さり、一同、大層勉強になりました。

宮崎先生のお話すべてを紹介するわけにはいきませんが、その冒頭の一部を紹介いたしますと、アメリカのレッドラインは、北の核弾頭の小型化実現とそのミサイルが本土に届くときである。習近平は一〇〇日くれ、その間になんとかするとおっしゃったという。習近平はアメリカと経済の話はメインにしたかったが、トランプはほとんど経済の話はしなかった。米中会談の途中でアメリカはシリアにミサイルを打ち込んで牽制した。ロシアには事前に知らせていたが、中国には事前に知らせなかった。また、アメリカによる北朝鮮攻撃はあるか? について、湾岸戦争勃発当時は、その近海に米空母が四隻いた。しかし、いま北朝鮮沖では米空母はまだ二隻である。また特殊部隊による金正恩暗殺もささやかれているが、堅固な洞窟の中にも忘れた思いでした。(清原記)

▽当「公益財団法人協和協会」とは、

昭和四十九年、岸信介元総理によって創立された財団。活動趣旨は、「政党・派閥・利害・打算の次元を超えて、真に国家的課題を調査研究し、特に重要課題は、政府宛要請書を作って、時の政府へ提出する」ことにある。昭和五十四年から本格活動に入り、月例会講話のほかに、八つの部会と、五、六の委員会があり、これまでに百三十七本の要請書を時の政府へ提出している。第二代会長は福田赳夫元総理、第三代会長は桜内義雄元衆議院議長、第四代会長は塩川正十郎元財務大臣、第五代会長代行として、江口一雄元衆議院議員、現在、第六代は会長代行として、岸信夫衆議院議員が就任している。

▽事務局電話(03)3581-1192

代表理事兼専務理事・清原淳平、総務 重田、高津